

NPO☆Kyoken通信



秋口号

☆特定非営利活動法人教育研究所(問題行動研究会事務局)95号 平成21年8月22日発行

〒233-0013横浜市港南区丸山台2-26-20 TEL:045-848-3761/FAX:045-848-3742

URL: <http://kyoken.org/>

E-mail: contact@kyoken.org

長雨と台風、そして、相次ぐ地震に見舞われている関東・東海地方だ。天候不順からくる日照不足で、今年のお米は大丈夫かなと心配になってきた。皆さま方の地方では如何でしょうか。

芦崎治氏の「ネットゲ廃人」出版元リーダーズノートが売れている。その煽りを受けて、新聞社、テレビ局からの取材がひっきりなしに続いている。インターネットの影の部分は携帯電話に限らず、メールやネットゲーム依存などの問題も引き起こしている。警告になれば良いと思ひ、出来る範囲に協力をしているのだが、この取材なかなか難しい。

取材対象の本人が「ネット依存の最中」なら絶対といって良いほど、取材には応じてくれない。不登校の場合は背景に“いじめ”や“体罰”ころない先生の指導が行われ、学校に行かれなくなった場合などは自分が原因ではなく、級友や先生に対する叱責の念から取材に応じてくれる場合もある。しかし、ゲーム好きが高じてや現実逃避として起こった「ネット依存」の場合は責がどう自己弁護しても自分にあるので人前には出られない。

たとえ、親が取材に応じてくれ、問題の本質が見えて来ても、実際本人がどんな様子なのかわからないと、視聴者に説得力がない。実態が解らないと社会的な問題になりにくい。その結果、家族だけでこの問題を抱え、ひきこもりは長期化し、学校への復学や社会参加の道は遠のいてしまう。

この問題に国家レベルで取り組んでいる韓国、中国、ベトナム、タイなどの国々は、子ども(未成年者)に対する人権の制限などもあり、親や相談員の意向で施策を立てられる。しかし、中途半端な人権尊重の日本では思い切った施策は立てられないようだ。

ネットゲーム依存の若者の最近の特徴として、小学生を含む低年齢化と禁止すれば家庭内暴力激化がある。じわじわと広がる傾向のネット依存。その対策を社会的に打つ段階に来ていると思う。(文責 牟田武生)

Kyoken通信ヘッドライン

- ◎9月から宇奈月若者自立塾ではじまる「橋渡し」プランとは
- ◎6か月コースの報告と後期生募集案内
- ◎平成20年度高校作文コンクール 文部科学大臣奨励賞受賞作品「心の涙(2)」
—教育研究所OG武藤夏美…中学時代のいじめ不登校をテーマにした作品です—
- ◎ 不登校の大衆化と時代の変化「書き下ろし新連載5」…牟田武生
- ◎ 9月以降の講演会&グループカウンセリングのお知らせ

～9月から宇奈月若者自立塾ではじまる～

「橋渡し」プランとは・・・

宇奈月若者自立塾 寮長 牟田光生

橋渡し訓練の実施と宇奈月自立塾

長い梅雨も明け暦の上では秋ですが、まだまだ蒸し暑い季節が続いています。10月から、宇奈月自立塾では公共職業訓練であるジョブカード制度を利用した。企業実習に先駆ける「橋渡し訓練」を実施したいと考えています。

この就職困難期に様々なニートの若者を社会に復帰させて参りましたが、3ヶ月での訓練機関は短すぎる面もあるし、親の負担を考えるとそれ以上延びるのも限度がある。そこで、国の今年度の若者自立支援の目玉である訓練給付金制度を利用した「橋渡し訓練」を行いたいと考えています。

この制度を利用すれば、自立塾修了生も継続した訓練（ビジネスマナー講座）や企業実習（就労体験）が受けられます。今まで就労が困難だった元塾生の就職率向上が見込まれます。また、企業としても補助金が受けられ、雇用の創出（即戦力）に繋がっていくことが考えられます。

自立塾終了後、元塾生に対しこの事業を展開していきたいと思っています。（独）雇用能力開発機構からも、是非、宇奈月でやって欲しいと依頼を受けております。

今後の予定としては、9月1日に各企業をお呼びし、（独）雇用能力開発機構からも担当課長が来られ、細かい内容についての説明会（参加企業説明会）を行います。そして、9月中に参加希望者を募り、10月から開始します。富山県で今年度25名の定員ですので、希望する方は早めにご連絡ください。

自立塾の訓練に引き継ぎ、正規就労を目指し、専門性の高い職業訓練（就労体験）を行っていきたいと考えています。

実施対象者

若者自立塾卒塾者（1年以内）

サポートステーション登録者

実施日時

9月末～10月初旬開始

流れ・実施場所

うなづき塾 橋渡し訓練（ビジネスマナー講座）約3週間

その後、各企業に行き職場実習（1～3ヶ月）

色々と細かい取り決めは随時教育研究所ホームページにアップして行きますのでご参考に！

*「橋渡し訓練」時には訓練給付金も支給され、親の負担が少なくなります。

6か月コースの報告と後期生募集案内

～6ヶ月コースの報告と募集～

梅雨が明け、ようやく夏日が来た感じがする宇奈月温泉です。

自立塾では塾生も大きな風邪を引かずに日々頑張っています。

6ヶ月コースの塾生も6が月の前期の訓練が終わり、いよいよ後期の専門職への実習に入っています。

今回の参加希望者はゴルフコースのみですが、他に、自然と共生しながら黒部峡谷の環境保全を目指し、地元建設会社に専属で就労体験させてもらうコース、裂き織り職人の養成コース等に分かれてより専門性の高い技術を養成しようと考えております。さらには新規として園芸コースも企画段階に入っています。

ゴルフクラブ製作コースですが、旧自立塾の1Fホールを全面使用した、本格的な工房を構え、1Fの部屋を製作したクラブや部品の倉庫とし、本格的に7月からオープン致しました！

先生も職人暦30年の向井先生をお呼びして、日々指導しております。

当初、中々そんなに簡単なものではないので、時間がかかるかも…と言っていたのですが、塾生も非常に頑張り、少しずつ売り物になれるような製品に近づいております。

ゴルフ業界自体は数年前までは非常に低迷していたのですが、女子プロゴルファーの台頭や石川遼君の活躍等があり、徐々に勢いを盛り返している。さらに2016年からのオリンピックの正式種目になるようIOCは推薦しました。また、IOCの推薦理由がマナー教育に効果があるとしています。

今年度、当NPOでは規範意識が全ての子ども達に欠落している傾向が見られると分析し、その問題を解決するためのゴルフ教育のプログラムをNGF（全米プロゴルフ協会）の協力の元、文部科学省プログラム開発の申請をしましたが、残念ながら全国の高校に武道館建設を進めるプランに負けました。でも、さすがIOCは分かっていると思えます。どうも、日本の教育界は柔道、剣道にこだわり、国際的な感覚が未だに欠落しているようです。

話は戻りますが、職人としてのスキルを磨けば就職先は広がるし、独立するのも出来る業界ではあります。一本一本を精密かつ丹念仕上げ、高品質の製品をつくる！

塾生のこだわりや観念もそういった方向に向いていけば素晴らしい製品が出来るでしょう！

まだ塾に来ようか迷っている人達も10月から新しく6ヶ月コース2期生をスタート致します！

今のうちならば定員も間に合いますので、募集をお待ちしております！

人生を変えるチャンスです。一緒にやってみませんか！！

◎ 平成20年度高校作文コンクール文部科学大臣奨励賞受賞作品「心の涙（2）」

教育研究所OG 武藤夏美

大人は絶対に子供を守ることはできない。

でも、本気で子供を守ってくれる大人もいる。

いつのまにか、私は先生のことを完全に信頼していた。

その先生はアジア諸外国でボランティアをやっていたこともあるが、私に外国の文化、歴史、宗教を教えてくれた。私は先生のことを信頼した上で、過去に友人達がいじめを受け、傷つき、走れない身体になり、登校する前に必ず吐いて登校を拒否する話をした。私はそのときずっと、涙目だったに違いない。私は傍でいじめを受けている友人を見ていながら、助けられなかった悔しさがあつたのだ。友人が蹴られ、殴られ、罵倒されているのを見て、私は当時10キロ以上体重を落としてしまった。学校を移る際に太ったが、皮と骨だった頃の腕を、今でも鮮明に思い出すことができた。

しかし私は甘かった。先生も、過去にいじめを受けたことがあると教えられた時の衝撃は大きかった。先生は明るく、生徒からも、保護者からも人気があつた。どう見てもいじめを受けるような人間ではない。

しかも先生は、いじめを受けた際に、一年間も声を失っていた期間があつたのだ。

一年間声が出ない——私はたった二ヶ月、体重を減らしたただけだった。なのに、声が出ない切なさの話を聞いた際、私は涙は出なかったが、心から涙を流した。

過去、友人達がイジメを受けているのに助けられなかった情けなさが心から溢れてきた。自分は何て小さな存在なのだろう、と改めて実感させられた。

クラスでは中心にいる。でも、それは学校という組織での話だ。

もがいても、騒いでも、声を大にして叫んでも、一人の命が救えるわけではない。

人の心の傷を塞げるわけではないことを、私はよく知っているのだ。

やりきれない思いに、私は自分の喉が焼ける感覚を覚えた。以前の中学で、どうしてイジメをするのか！とイジメグループのリーダーに詰め寄った時、私は長い髪を引っつかまれた経験があつた。

彼女は、「いじめられるやつが悪いんだ」と言った。彼女とは小学校一年からの付き合いだったのに、あの際に軽蔑されるように睨まれた大きな目に、私は恐怖感を覚えた。

いじめられるやつが悪いわけがない、と私はこれまでの人生で最後の涙を流した。

それ以来、私は泣けなくなってしまった。友人を守れず、いじめを黙認する教師を嫌悪し、いじめという行為を正当化させる言葉をずっと胸に潜め続けた。

私はいじめをなくしたい、と思いながらたくさんの本を読み続けた。新しい学校に移った際、胸の内を校長に話せば、「たくさん本を読みなさい」と仰った。言われた通り、私はマルクスや、ニーチェや、アインシュタインや、中学生が読まない専門書を読み続けた。10代の間に多くの本を読み、知識を多くするべきだと考えたからだ。高校に進学する時、私は絵の専門学校への推薦が受けられるという待遇を受けたが、断った。絵の勉強をするよりも、私はもっと広く勉強がしたかった。それは、先生に世界の歴史、国際情勢、貧困、先進国、戦争、といったことを教わり、もっと自分は勉強する必要があると思い、通信制の学校を選んだ。

そして私は望星高校で生徒会長になるという貴重な現在を得、新たに進路を考えた。

あの日決意したいじめをなくす、という目的がある。でも私は、望星で色んな人と出会えた。様々な話を聞いた。

いじめの話が、主だった。

必死に勉強し、本を読み、人と話し、社会を経験していくうちに、私は悟ってしまった。

いじめはなくなることはない。

「戦争がなくならないのと同じで、イジメもきつとなくならないでしょう」
私は二年の夏、先生と一緒にカフェで話した。以前よりも賢くなったであろう私は、悲しく言った。
それが現実だと思い知らされたようで、私は悲しくなった。
足を失った友はどうなる？登校を嫌がる友は？と、心から涙を流し、血を出しながら、これからも友達と同じような子が現れるであろうことを、悲嘆した。
「人には感情がある。妬みも怒りも悲しみも、全部感情です。人と人が接する時、必ず感情が表に出る。特に子供は、感情を隠さない。感情というものが人間からなくなれない限り、戦争も、いじめも、起こり続ける」
先生は黙っていた。先生はだから、自分がいじめを受けたからこそ、いじめを未然に防げる教師になったと聞いた。もしかしたら先生のおかげで、あの中学校にはいじめがなかったのかもしれない。とさえ、思ったほど先生は優秀な教師だった。
だったら、私も教師になる、と言いたかった。だが、私は最初の中学校の時に悪い例を見すぎていた。もしかしたら、私が最も嫌った自己保身に長けた教師になる恐れもあった。
「もっと勉強します」
と私は改めて決意を固めるように言った。
「もし希望のレベルまで達したら、法律学部に行き、法律を学び、大切な人達を守れるように力をつけます。いじめを未然に防げるよう、いじめを専門にできるようにしたいから。でもそれができなかつたら、美術の道に進み、教師になります。現場でいじめ問題に取り組めるように」
カウンセラーになる道も考えたが、私には向いていないことも理由だが、いじめを受けた子供のカウンセリングは、いじめを未然に防ぐことにはならないのだ。
私がそう言った時、先生は優しく、
「頑張るってね」
と言って下さった。先生に優しく言ってもらえるたびに、私は自分の無力さを確認しながら、また先に進める力を得るような気がした。
これからもっといじめが酷くなるであろうことは、皆がわかっていることだ。
いじめは世界の戦争と同様に、なくなることはない。
だが起こる回数を減らすことは可能だ。
私はいじめというものを目前で経験したため、言えるのだ。
もうあんなことがあってはならない。それは許されないことだ。
絶対の未来を掴むため、私は学び続ける。

—書き下ろし—

新連載 (5) 不登校の大衆化と時代の変化

牟田武生

平成3年中学校の不登校生は54,172人(1.04%)平成20年103,985人(2.89%) (注1)である。平成に入り、登校拒否という言葉から不登校と呼び名を文部省が変えて、ウナギ登りに増加傾向を示して行った。

当時の登校拒否の子が自分の葛藤の気持ちを表した言葉に「学校に行きたくても行けない」がある。その頃の登校拒否の子どもは、人間関係を中心にした様々な悩みや葛藤から夜眠れなくなり、朝、起きれなくなったり、たとえ、起きられても不快な精神症状が出たり、発熱(7.5分程度)腹痛、頭痛、下痢、嘔吐等の身体症状が出て動けなくなる事例が多かった。これらの症状を持つ子を心因性の不登校と私は名付けた。

学校でも家でも頑張る子(気を使う子)がなるから、当時、登校拒否の子を早稲田大学の小泉教授は「優等生

の息切れ」といった。これらの子らは自罰傾向が高く、家族が子どもの気持ちを理解できずに、登校刺激を過剰に行くと、家庭内暴力がひどくなったり、子どものタイプによっては強迫行為を繰り返し起こし、登校拒否が長期化し自分の殻にひきこもるから、当時、閉じこもりともいわれた。後に自閉症の子らと区別するためにか、“閉じこもり”とはいわずに“ひきこもり”と自然にいわれるようになった。1990年11月に起きた新潟県少女誘拐監禁事件（注2）が起きてひきこもり現象が注目をあびたが、それよりずっと前から、今でいうひきこもりはあった。

その点、今、中心になっている不登校は無気力で葛藤がなく、ちょっと嫌なことがあると現実逃避してしまい、自分は悪くない、悪いのは他人とする他罰傾向が強いタイプの子が多い。成績的にも前者は良くできる子が多かったが、後者はどちらかという学習遅滞傾向の子が多くいる。また、生活レベルも前者は比較的、高額所得の家庭が多かったが、後者は普通の家庭もしくは低額所得の家庭の方が多くなっている。

別に学校に行かなくても、義務教育段階では、進級も卒業も出来、卒業後も受け入れ校があることが、大きな原因のひとつになっているようだ。これらのタイプに前者の子に行う受容的な対応を行うと、必ず長期化していく。

人間関係が苦手と全体の空気が読めず、コミュニケーションがうまく取れず、自分の感情を言葉にして表すことが出来ないために、口より手が先に出るキレるタイプが多い。学力も不足しており、体力もなく、労働が高度化している社会に適応していくことが非常に難しくなっている。

それこそ「様子見ましょう」「待ちましょう」のカウンセリングのみの対応ではなく、早期における具体的な対応が望ましいタイプといえる。このタイプには臨床心理士の来談者を中心としたロジャース流対応ではなく、“受容から指導”を一貫して行った一昔前の教育相談の方が、効果があがるのだが、今の時代、その技術を持った教師のほとんどが退職したり、臨床心理士が中心になった心理業界では、お払い箱になってしまった。非常に残念なことである。

注1、文部科学省学校基本調査、毎年8月に発表される。

注2、新潟、柏崎で小学4年生の女兒が当時28歳のひきこもりの男によって9年2ヶ月にのぼる誘拐監禁事件のこと、この事件について詳しく知りたい方は<http://book.asahi.com/bunko/TKY200903300235.html>をどうぞ！

NESその1、NPO教育研究所が協力している「あすなろ学校」の活動をベースにしたドラマ サムスンスペシャル「伝えたい！ 僕らの夢」聴導犬が教えてくれたチカラ～あすなろ学校の物語～TBS7月20日放映のDVDがあります。

会員の方でご希望の方は無料でお分けしますのでご連絡ください。

NESその2、9月から講演会は横浜・富山共に魅力的な連続講演会とミニオープングループ相談が始まります。会員の方は無料ですので、ぜひ、ご参加ください。

NESその3、ネット依存の方及び家族の方でマスコミ取材に協力してくれる方はご連絡ください。もちろん、プライバシーは尊重する取材及び報道を致します。

◎ 講演会のお知らせ (9月～12月予定)

9月から12月まで全体のテーマを「困難な時こそ、若者の自立を考えよう！」という演題で迫ります。会員は無料です。

9月5日(土) 13時から17時	横浜	ウイリング横浜 12F123号室 若者の自立、やれるところからやってみよう！ 「ひきこもりからの脱出のプロセス」 講師 牟田武生
9月20日(日) 13時から17時	富山	富山県民会館 613号室 若者の自立、やれるところからやってみよう！ 「ひきこもりからの脱出のプロセス」 講師 牟田武生
10月17日(土) 13時から17時	横浜	ウイリング横浜 12F123号室 ～親としてやるべきこと～ 「子どものひきこもりを通して、私が考えたこと」 体験者の親の方、2名
10月11日(日) 13時から17時	富山	富山県民会館 707号室 親としてやるべきこと 「子どものひきこもりを通して、私が考えたこと」 四十物 直之 氏
11月15日(日) 13時から17時	富山	富山県民会館 613号室 体験者は語る 「不登校・ひきこもり・ニートからの脱出」～親にのぞむこと～ 体験者数名
12月10日(日) 18時から21時	横浜	ウイリング横浜 5F501号室 体験者は語る 「不登校・ひきこもり・ニートからの脱出」～親にのぞむこと～ 体験者数名

その後の講演会(横浜1月、富山12月)では個々の事例を通して考えることをします。ぜひ、シリーズを通してご参加ください。

◎ グループカウンセリングのお知らせ

宇奈月、横浜でそれぞれグループカウンセリングを実施します。
 グループカウンセリングは、7名前後の参加者とカウンセラーが行なう小集団のカウンセリングです。
 宇奈月、横浜とも牟田先生のグループカウンセリングです。今回は三回シリーズになります。
 日程、参加申し込みは下記の通りです。

◎ 日程

・富山宇奈月 (AHE ビルカウンセリングルーム)

一回目	二回目	三回目
10月11日(日)	11月15日(日)	12月未定(日)

※ 時間はいずれも午前9:30~11:30です

・横浜 (丸山台事務所)

一回目	二回目	三回目
9月17日(木)	10月15(木)	11月19日(木)

※ 時間はいずれも午後2:00~4:00です

※ 都合により日程など変更する場合がありますのでご了承下さい

—グループカウンセリング申込書—

参加希望の方はF a xまたはメールでお申込み下さい

参加者氏名	
住所	〒
TEL	
Email	

※ グループカウンセリング費用 ¥9,000 (¥3,000×3回) 会員の方は特典があります

F A X 045-848-3742

メール contact@kyoken.org

NPO法人教育研究所の会員の申し込みについてのご連絡

従来、会員の皆様には会費を年会費として一律5,000円お支払いいただいておりますが、平成21年1月から、1口5,000円としてお申し込みをいただきたく存じます。

昨年度の牟田先生の緊急入院に関しまして、皆様方の温かいご支援をいただき、教育研究所も何とか再建の方向で動き出すことが出来ました。牟田先生も少しずつ現場に復帰出来るまで回復し、カウンセリング、講演などの活動を始めました。

ただ、教育研究所の運営はまだまだ不安定な状況であり、運営の母体となる年会費を皆様にご協力していただけるよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

会員の特典も新しく追加しておりますのでご検討いただければ幸いです。

- 会員の有効期間はお支払いいただいた時から、1年間の有効期間となります。
- 今年から新しく1口以上の会員の募集も行います。
 - ※ 1口¥5,000 (1口増えるごとに¥5,000加算されます)
 - ※ 銀行ご利用の場合は下記の口座にお支払いください。その場合は、必ずご自身のお名前を入れてください。よろしくお願い致します。

新しく会員の申込をされる方は、下記の申込書でご連絡ください。

会費納入口座は 北陸銀行 宇奈月支店 (ホクリクギンコウ ウナツキシテン)
 名義 特定非営利活動法人教育研究所 (普) 5014010
 郵便振替 00230-9-112182 特定非営利活動法人教育研究所

会員の方には、

- カウンセリング料の割引 1万5千円→1万円
- 年5回程度の定期通信の発行
- 講演会などのイベントのお知らせ
- お母さんたちのミニ図書館の利用
 - ・ 新特典
- グループカウンセリングの割引(1口につき1回無料)
 - ※ グループカウンセリングは年3回、横浜・宇奈月で実施します。
- 教育研究所温泉宿泊施設 (AEHビル) をご家族で利用できます。
 - ※ 1口につき二名まで一泊無料 (朝食含む) となります。(ただし、4月から11月まで)

.....

新規入会申込書 (新しく会員になる方は郵送かFAXまたはメールでご連絡ください)

(郵便振替でお申込みいただく方は必要ありません)

入会者氏名	
住所	〒

郵送先 〒233-0013 横浜市港南区丸山台 2-26-20 Fax 045-848-3742

2009年「特定非営利活動法人教育研究所うなづきの活動案内」

・ **若者自立塾**・・・3ヶ月の共同生活の中で、生活リズムの改善、人間関係のスキルを向上させ、ビジネスマナーを身に付け、様々な就労体験を通して、働く意欲を身に付け、自立することを目指します。当塾は、日本有数の設備、就労体験の豊富さ、温泉設備、有数の正社員雇用率、修了後の様々なフォローなど充実しております。

個人負担分（寮費）3ヶ月間で200,000円～300,000円、訓練費は国の負担（3ヶ月間270,000円）になります。年間世帯収入が400万以下の低所得の方は個人負担分3ヶ月間で150,000円～200,000円になります。（ご相談下さい） **【定員 20名】**

※ 2009年4月より、6か月コースが行なわれています。

・ **宿泊型フリースクール**・・・20年を越す通所施設の実績を基に民間施設「教育研究所」が生まれ変わります。今の不登校のタイプは通所型では長引くばかりで効果が上がりません。不登校への対応の基本は、不登校が長期間になると、本人の人生にその後、マイナスの影響を及ぼすために、なるべく短期間に再び不登校・ひきこもりにならないための対応が必要です。最近多い親子の共依存関係から離れ、自立することを目指します。

3ヶ月コース、6ヶ月コース、1年コース、高卒検取得コース、富山の県立・私立高校通学コース、地元中学転校コース、留学コース（カナダ、台湾、タイ、韓国など）、

子ども一人ひとり応じたコースを用意します。

費用、寮費、教育費、カウンセリングなど、月150,000円。（ケースワーク費用・留学費用は別途になります）

【定員 中学生6名、高校生年限の者10名】

・ **ネット依存**・・・ネット依存に陥ってしまった若者に現実社会の豊かさを学び、ネットに対して自己規制出来るようになるためには、共同生活の効果が非常に高いということが分かってきました。ネット依存の日本初めての本格的な治療コースです。プログラムは治療から学校及び社会復帰まで含まれています。状態に応じて3ヶ月コースと6ヶ月コースがあります。

費用、寮費、教育費、カウンセリング。月150,000円（ケースワーク費用は別途になります）

【定員 10名】

・ **短期体験合宿**・・・5泊6日の体験コースです。基本的には各コースの入塾のための体験合宿です。（年4回程度）35,000円、 **【定員 6名】**

※ 厚生労働省の入塾体験費用が適応できます。（詳しくは事務局にお問い合わせください）

・ **自立塾OBのフォローワーク**

コース	内容	寮費（1ヶ月）
A	カウンセリング&ケースワーク+生活指導+就労体験+就職支援（全てを含むケア）	145,000円
B	就職活動&アルバイトの世話、ケースワークなど	100,000円
C	寮からの正規就労（3食付き）	70,000円

※ 寮費の中には、食事代、寮費を含みます。（Dコースは食事代別です）

その他アルバイト&就労している方には布団使用料月1,000円、駐車料月1,000円（別途）が掛かります。短期体験合宿以外の上記希望者は随時受付をしています。（但し、事前面接が必要です）

※ 各コースとも定員になり次第締切ります

- ・ 保護者のための研修会 (1泊2日) とグループカウンセリング (日帰り)

子どもや若者への対応や親としてやらなければいけないこと、子どもの再登校、社会復帰のためにしなければならぬことを集中的に学びます。(年3回程度) 18,000円

若者自立塾以外は合宿所として富山県黒部市宇奈月温泉「NPO教育研究所AHEビル」を使用。

◎ 教育研究所伝言板

- ・ 牟田先生のカウンセリング・・・随時予約受付を現在行なっております。(横浜事務所)
富山では宇奈月滞在中に行なっています。(要予約)
 - ・ 牟田先生の講演・・・・・・・・・・2月より開始しています。
 - ・ 牟田先生のグループカウンセリング・・・横浜・宇奈月とも9月より二期目を再開いたします。
 - ・ 牟田先生のケースワーク・・・・・・・・4月より再開しています。
- いずれも体調を見ながらの再開になります。急に変更が起きる場合もありますから、ご承知置き下さい

◎ 継続して寄附を求めています

専用寄附口座 横浜銀行 上永谷支店 店番号 323 口座番号 1442822

名義人 特定非営利活動法人 教育研究所 (寄付) 理事長 牟田 武生

ソフトボールや軟式野球で使うグローブやバットで使わなくなったものが、ございましたら、ご寄附ください。
(送料は負担します)

ボランティア募集中

教科指導の補助出来る方 (英語・数学・国語)

カウンセリングやケースワークの臨床をしたい方。

時間講師募集中、高卒検程度の教科指導できる方。

技術をお持ちの方で、定年退職され、その技術を若者に伝え、若者の自立支援に役立ちたい方

お母さんたちの交流会のお知らせ☆

「毎月5～6人が集まって、お茶を飲みながらおしゃべりに花を咲かせています。共通する悩みを持つもの同士、気軽な気持ちで、息抜きにでも参加して頂ければいいなと思っています。」（卒業生の母より）

- ・同時に親の会ミニ図書館を開催。
 - ・会員の方ならどなたでも利用可。
 - ・不登校やひきこもりに関する本や心理の本等が300冊以上あります。ぜひご利用下さい。予約の必要はありません。
- 毎月第4土曜日午後1時から4時頃まで
NPO教育研究所横浜事務所にて
参加希望者は教育研究所までお願いします。



親会からのお知らせ

9月から教育研究所への寄附を会員の方の郵便口座から、毎月定額を自動引き落としとしてお願いいたしますというご案内を教研通信94号でお願いしました。

会員の皆様のご協力をいただき、32名のかたのご賛同を得ることが出来ました。

9月10日から引き落としが開始される予定です。

引き続き賛同の会員を募集しています。

詳しい内容につきましては、教育研究所までお問い合わせください。

編集後記

梅雨明け宣言がはっきりしないうちに立秋を迎え、空を見上げると、秋の雲が何時の間にかすじを引いている。夏はどこに行ったのか？お米は大丈夫なのか、日照時間の少ない年、お米は不作の年が多いと聞く。

ニートと呼ばれる人、大学生にも選挙に行きたくない。この国の未来が問われる衆議院選挙。弱者になってしまった若者の未来が開ける元年になって欲しい。

心温まる寮を目指し、4年間の宇奈月若者自立塾の活動が終わり、いよいよ、5年目を迎え、経営も軌道に乗せなければならないが、今だに職員の給与は雀の涙、それも、次第に遅れがちになっている。みんなでなんとかしなくてはと思うが、現実の壁は厚い。

ゴルフ工房が始動を開始している。需要に生産が間に合わないくらい製作しているヨセワンが売れている。品質管理の徹底こそ命。実習生も頑張っている。しかし、一人前になるには時間がかかる。しかし、当初考えていた通り、ひきこもりの人の特性は職人気質にあっている。日本の未来の物作りの実験場が宇奈月にあると自負している。

理事長、手術後1年経過、ステージIV（末期）になってしまった。主治医は今は安静が大切というが、休みなしで、ひきこもりやネット依存の若者のために働くが、いつまで命が続くのか。不安がまた大きくなった。早くスタッフが一人前にならなくては、しかし、理事長の仕事内容はエベレスト登頂のごとく困難を極める。無理せず！仕事を選んで本当に必要なことだけをやりたいと願うスタッフ一同だ。詳しくは牟田武生ブログをお読みください。